

資料3-2-1

HPCI計画推進委員会
(第70回) 令和8年9月29日

HPCIコンソーシアムの活動状況と将来展望

2026年9月29日

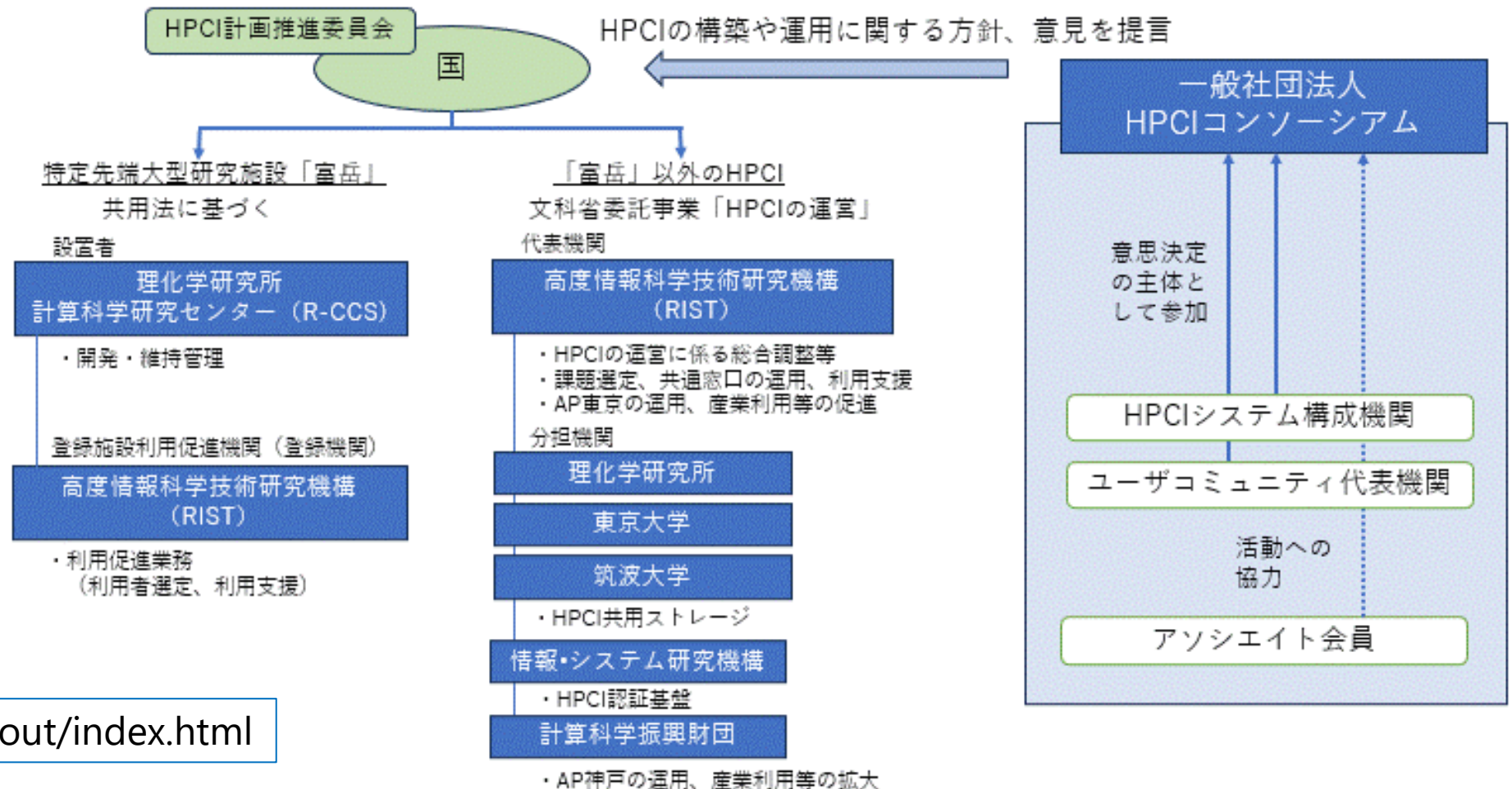
一般社団法人 HPCIコンソーシアム
理事長 滝沢 寛之

HPCIコンソーシアムの位置づけ

2

- ・ **ユーザコミュニティと資源提供機関の双方を構成員とし、HPCIの将来に関する意見集約と検討を行う組織**

HPCI計画推進の仕組み ～国・コンソーシアム・業務執行機関の役割～





調査検討WG・提言

- ・ 次世代計算基盤、ユーザビリティ、ソフトウェア・人材育成等の検討



シンポジウム・成果報告会

- ・ 令和7年度はハイブリッド開催で合計583名の参加



産業利用・人材育成・ソフトウェア賞

- ・ 産業界との意見交換、教材・講習、ソフトウェア賞授賞



計算科学フォーラム・ロードマップ

- ・ 分野横断の議論、将来の科学と計算需要の整理

- 「**計算資源の提供**」から「**研究に必要なサービスの提供**」へ ※ 計算資源の提供も引き続き重要
 - シームレスな計算・利用環境
 - センター間の違いを過度に意識せず、認証・ジョブ投入・実行環境を利用
 - AI・データ解析
 - HPC計算からAI学習・推論、対話的解析まで一連の環境で実行
 - データ・ワークフロー
 - 実験・観測データを転送・管理し、計算・AI解析へ接続
 - 利用・開発支援
 - 講習・相談・移植支援を受けることで、新規利用者も比較的容易に利用
- 研究に必要なサービスの把握には**ユーザコミュニティの意見収集が不可欠**
 - ユーザのニーズを把握・整理することが**HPCIコンソーシアムの重要な役割**
 - 今年度の提言でも、ユーザビリティ、GPU・AI利用、ソフトウェア環境、人材支援等を具体的に整理（後ほど紹介） ← **ユーザコミュニティからの意見収集の成果**
 - サービスは固定的なものではなく、ユーザや技術の変化に応じて**継続的に見直す必要**

コミュニティの声を改善へとつなげる役割

5

- **HPCIコンソーシアムの強み**

- HPCIコンソーシアムにはユーザコミュニティ代表機関も構成員として参加

- **現在の構成・活動で、その声を十分に捉えられているか？**

- AI・データ科学・実験 / 観測科学など新たなステークホルダーが急拡大

➡ **ユーザコミュニティの声をHPCI全体の議論・改善に継続的につなげる役割の維持とさらなる強化**



提言から実行・評価までをつなぐ体制

6

・今年度の提言で示されている構想

- ・ (HPCIコンソ単独ではなく) 複数組織の役割分担でHPCI全体の改善を実行・評価

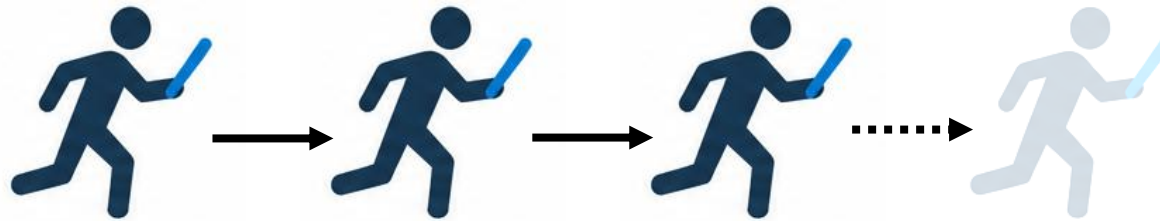


変化し続けるHPCIを支える恒常的な改善サイクルの構築

- 現在のHPCIコンソーシアムの活動

- 理事・WG・会員の高い専門性と尽力によって支えられている

➡ 役員任期や個々の活動に依存しやすい構造



知見や課題が
途切れるリスクも

意思決定・提言を継続的な活動につなげる実務機能が限定的

- ニーズ把握、課題整理、フォローアップ、関係機関との対話・連携を継続的に支える機能が必要

- 今年度の提言でも、フォローアップ委員会等の必要性を明記

- ・ 利用者・技術の変化に応じ、HPCIに求められるサービスも変わり続ける
- ・ HPCI全体として、提言→実行→評価→改善のサイクルを継続的に回す必要
- ・ HPCIコンソーシアムは、ユーザコミュニティとHPCI改善をつなぐ役割を持続的に担える組織・体制へ

提言の具体的な内容を横田理事よりご報告